

科目	心理学研究法 I	単位数	2
担当教員	亀島 信也		
履修対象	心理科学科 1 年秋学期		
概要と目的	実験と観察の方法、質的・量的データとその収集方法など、心理学研究に必要な知識を修得する。		
達成目標	「知識・技能」 (1) 心理学を研究する方法や手順などを正確に説明できる。 (2) 実験や観察の方法、ならびに、質的研究や量的研究を正確に理解し比較ができる。 (3) 卒業論文作成に必須な、研究デザインの仕方について基礎的技能を持つ。 「思考力・判断力・表現力」 (1) 心理学文献などで取りあげられた研究方法について、生産的に批判できる。 (2) 論理的な思考と魅力的な研究デザインによる効果的な表現能力を獲得する。 「主体性・多様性・協働性」 (1) 心理学研究法の面白さから主体的に学習する意欲が高まる。		
授業計画			
1	講義予定と講義内容、成績評価、注意事項などを説明する。		
2	心理学は科学的方法を用いていることを説明する。		
3	心理学の調査研究法の基礎と実験的研究を検討する。		
4	日常生活行動を検討する非実験的研究法を概観する。		
5	心理学研究で用いられる色々な研究デザインを比較検討する。		
6	標本抽出法を概説し実験のバイアスを抑える方法を示す。		
7	信頼性と妥当性の区別し、実験統制のエラーを検討する。		
8	実験や調査レポートでデータ提示する方法を詳説する。		
9	代表値・分布図・標準偏差と分布や基礎統計を学習する。		
10	心理学研究における 4 つの尺度レベルの違いを説明する。		
11	統計的推論や検定を行なうことについて解説する。		
12	量的研究で得られたデータ分析に適切な検定法を区別する。		
13	質的研究で得られたデータの扱い方について検討する。		
14	卒業論文でも使える研究レポートの書き方を説明する。		
15	心理学研究法のまとめとして今学期学習した内容を概観する。		
授業形態／具体的な内容			
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
心理学研究法入門心理学エレメンタルズ	アン・サール著宮本聡介訳渡辺真由美訳	新曜社	2,200 円
参考書			
成績評価の基準・方法	<b>基準</b> 心理学を研究する方法や手順を理解できれば合格とする。 <b>方法</b> 単位認定に関しては、定期試験で判断する。 定期試験については、担当教員による講義の理解を問う（80％）。 講義中や補講期間中に小テストを行うこともあるので注意すること。 事前に講義ノートを入手することや、質問などによるクラス参加度を評価する（20％）。		
留意点			
準備学習	開講初日に詳細なシラバスを配布するので、それに基づき週に 2 時間程度の準備学習を期待する。 各回の講義前にシラバスに掲載している教科書の部分を熟読してくること（1 時間程度）。 各回の講義後に教科書にある課題（練習問題）をこなし復習しておくこと（1 時間程度）。		
備考		No.	PY621001